

日本ストライカー 日本の臨床ニーズに合致した頸椎・椎弓形成術用プレート 「Lhotse プレート」を販売開始

日本メディカルオーダー株式会社と製造委託契約を締結し
整形・脊椎・脳外科領域をカバーするトータルソリューションを提供

日本ストライカー株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役社長：水澤 聡）は、頸椎症性脊髄症に対応する手術方式のひとつ「椎弓形成術」で使用するインプラント「Lhotse（ローツェ）プレート」を7月1日に販売開始しました。Lhotse プレートは、日本メディカルオーダー株式会社（本社：新潟県長岡市、代表取締役：南竹 弘樹）が製造する「Leo プレート」を、両社間の製造委託契約に基づき、当社指定の商標を付して当社が販売するものです。全国の整形外科・脊椎外科を主な対象に、日本の臨床ニーズに応えるため、積極的に販売いたします。

頸椎症性脊髄症は、加齢などによって頸椎（首の骨）に変形が発生し、頸椎内を通る脊髄に骨棘（こつきょく：頸椎に発生したとげのようなもの）が触れることで、手指や下肢のしびれ、歩行困難などを引き起こす疾患で、欧米人に比べて一般的に頸椎が小さいとされる日本人の中高年に好発します。椎弓形成術は、頸椎や脊椎（背骨）の一部である椎弓部分を切開して広げることで椎体内部の除圧を行い、脊髄への負荷を軽減することを目的とする手術です。椎弓部分を切開して広げる方法のうち「片開き法」において、開大椎弓部をフック型のプレートを用いて支える術式が広く行われており、Lhotse プレートはこれに対応します。

日本では頸椎症性脊髄症やその他の頸椎部位の疾患に起因する椎弓形成術は年間約 15,000 例行われており（*1）、このうちプレートを用いる術式は 10,000 例程度と推計されます（*2）。当社はこれまで椎弓形成術に対応する製品を有していませんでしたが、日本人の骨格に合わせて開発され、独自の傾斜角・豊富なサイズ展開とプレートデザイン・目的に応じて選択できるスクリューを有する Lhotse プレートが当社製品ポートフォリオに加わることで、脊椎・頸椎領域における当社の幅広いソリューション提案が実現します。また、整形外科・脊椎外科のみならず、脳神経外科領域も広くカバーする当社の総合力も活かし、頸椎疾患における臨床ニーズにきめ細かく対応してまいります。

*1：日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）年次報告 2022 年度登録データより

*2：当社独自市場調査に基づく推計値

■日本ストライカー株式会社について

日本ストライカーは、米国・ミシガン州に本社を置くストライカーコーポレーションの日本法人です。ストライカーはメドテック（医療テクノロジー）分野におけるグローバルリーダーであり、お客様である医療従事者の皆さんとともに、医療の向上を目指しています。医療・手術用機器、ニューロテクノロジー、整形外科、脊椎関連分野などの幅広い領域において、革新的な医療機器・サービスを提供しています。ストライカーは毎年、世界中で1億5千万人以上の患者さんに貢献しています。詳しくは www.stryker.com/jp をご覧ください。

■本リリースに関するお問い合わせ先

日本ストライカー株式会社 コーポレートコミュニケーション・ブランディング本部
山代 有紀
携帯：070-7539-6415 yuki.yamashiro@stryker.com

【参考画像：Lhotse プレート】



製造販売業者：日本メディカルオーダー株式会社
販売名：L h o t s eプレート
医療機器承認番号：30300BZX00152A01
高度管理医療機器